

# 第6章 第2期大田市健やか親子計画

## 1 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策 [基盤課題A]

### 施策の方向

妊娠・出産は女性のライフサイクルにおける大きな健康の節目であり、産前・産後は特に安心できる環境が必要です。また、産後は母乳育児やスキンシップ等を通じて母子の愛着を促し、親子関係の基礎を築く大切な時期でもあります。

すべての親が安心して妊娠・出産・子育てができるよう、関係機関と連携を図りながら切れ目ない支援を行っていくことが重要です。

### 行動目標

- ◎母子健康手帳を活用し健康管理をしよう
- ◎悩みがある時は相談しよう
- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組もう
- ◎メディアの利用について家庭でルールをつくろう

### 市民の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期	・不妊について悩んだときは、専門機関へ相談しよう
	・妊娠がわかったら早期に母子健康手帳の交付を受け、定期的に妊婦健診、歯科検診を受けよう
	・母子健康手帳を活用し、自分自身の健康に関心を持とう
	・妊娠中の喫煙、飲酒はやめよう
	・家族で共に子どもを育てることについて話し合おう
	・妊娠中に悩みがあるときは、自ら周囲に相談しよう
乳幼児期 (保護者)	・乳幼児健診を受けよう
	・定期的に歯科検診を受け、仕上げみがきをしよう
	・メディアの利用は2時間までとし、親子のふれあい遊びの時間を増やしましょう
	・事故予防のため、家庭内の危険な場所の点検や改善をしよう
	・チャイルドシートを必ず使用しよう
	・家族や身近な人が育児をシェアし、協力して子育てしよう
	・子育てに悩むときに、自ら周囲に相談しよう
・予防接種の必要性を理解し、計画的に予防接種を受けよう	

## 地域・団体の取り組み

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣、適度なメディア、偏食・欠食の防止など望ましい食習慣が身につくよう、保健指導や情報提供を行い、家族ぐるみ、地域ぐるみの取り組みを推進します
- ・妊娠・出産、子育てについて理解し、協力します
- ・産前産後休暇、育児休暇の制度の周知と利用しやすい環境を整えます
- ・妊婦、胎児、子どもをたばこの害から守ります
- ・妊婦への飲酒を勧めません
- ・子育て支援に関する研修会等に参加し、支援を必要としている子育て世代を支えます
- ・子どもたちが健やかに育つよう行政と連携し、子育て支援に努めます
- ・地域の親子が孤立することのないよう見守りや声かけをします

## 行政の取り組み

◇まちづくりセンター単位で保健師が地区担当を持ち、母子保健コーディネーターと連携し、妊娠、出産、子育てまで切れ目ない支援を行います

◇心身の変化が大きい産前産後に必要な相談・サポートを行います

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期	・早期の妊娠の届け出を引き続き促進し、妊婦健康診査の受診勧奨や普及啓発を行います
	・支援の必要な妊婦を早期支援につなげるため、妊娠届出時のアンケートを継続し、妊娠期から育児期まで切れ目ない支援に努めます
	・妊婦自身が妊娠についてよく理解し、健康管理ができるよう、医療機関等と連携し、個別支援や情報提供を行う体制を整備します
	・妊婦が自らの口腔の健康状態に関心を持ち、生まれてくる子どものむし歯予防などに積極的に取り組めるよう、妊婦歯科検診を継続実施し、かかりつけ歯科医を持つことの重要性の啓発など、歯科保健対策を推進します
	・乳幼児突然死症候群（SIDS）による死亡を減らすため、妊婦やその家族、子育て期の親の喫煙実態を把握し、禁煙に向けた個別支援の実施、受動喫煙防止の啓発に努めます
	・不妊で悩む人を支援するため、一般不妊治療費の助成を継続し、負担の軽減を図ります。また不妊相談窓口等の情報提供及び不妊の知識の啓発に努めます

ライフステージ	取り組み事項
産後	<ul style="list-style-type: none"> <li>産後早期に保健師、助産師等で家庭訪問を全数実施し、産後うつや育児不安を持つ保護者が安心して育児ができるよう支援を行います</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院から連絡のあった妊産婦及び妊娠期より把握している要支援妊産婦、未熟児については、連携しながら支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>母乳育児を推進するため、母乳育児を望む母親が、適切な時期に必要な支援を受けられる体制を整備します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てについて学び、相談できる場を提供します</li> </ul>
乳幼児期 (保護者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児健康診査を充実し、疾病や発達障がい等の早期発見、早期支援に取り組みます。また、乳幼児健康診査等を通じ、親が自信をもって子育て出来るよう支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期予防接種が適切に接種されるよう、医療機関と連携し、支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの時から、命の大切さを学ぶことが出来るよう支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子のふれあい遊びや親学などの提供を行い、愛着形成を促します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医を持つよう支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育を推進し、食育ボランティアとの連携、家庭や関係機関との連携を図り、正しい食生活習慣の啓発を行います</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所、幼稚園等の関係者と連携を図り、食事や歯みがきの指導を行い、フッ化物の利用を促進し、保健対策を推進します</li> </ul>

## コラム

### 早寝・早起き・朝ごはん

子供たちの健やかな成長には、「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しいリズムが大切です。このリズムが崩れると、学習意欲、体力、気力の低下に繋がります。

みなさんも「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、日頃の生活リズムを見直して、元気に過ごしましょう！

○睡眠（早寝）  
疲労回復、体を成長させたり、頭を良くしたりする。



○早起き  
朝の光は脳の覚せいを促すホルモンを活発に分泌し、スッキリと目覚めることができ、集中力が上がります。



○朝ごはん  
毎日朝ごはんを食べている子供は「学力調査の平均正答率」や「体力合計点」が高い傾向にあります



## 数値目標

項目		現状値 H30 年度	目標値 R5 年度	
妊産婦死亡率（出産10万対）の減少		0	0を維持する	
全出生数中の低出生体重児の割合の減少		10.2	9.7	
妊娠・出産について満足している者の割合の増加	4か月児の保護者	90.0%	95.0%	
1人平均むし歯本数の減少	1歳6か月児	0.03本	0.02本	
	3歳児	0.47本	0.44本	
むし歯のない3歳児の割合の増加		83.3%	86.0%	
妊娠中の妊婦の喫煙率の減少		1.5%	なくす	
出産後4か月児の母乳育児の割合の増加		45.8%	49.0%	
育児期間中の両親の喫煙率の減少	母親	2.6%	なくす	
	父親	37.4%	20%以下	
妊娠中の妊婦の飲酒率の減少		0.5%	なくす	
乳幼児健康診査の未受診率の減少	4か月児	0.0%	0を維持	
	1歳6か月児	0.0%	0を維持	
	3歳児	0.0%	0を維持	
子どものかかりつけ医（小児科医師）を持つ親の割合の増加	4か月児	53.3%	56.0%	
	1歳6か月児	80.5%	85.0%	
	3歳児	—	増やす	
子どものかかりつけ医（歯科医師）を持つ親の割合の増加		3歳児	21.9%	23.0%
仕上げみがきをする親の割合の増加	1歳6か月児	85.1%	90.0%	
	3歳児	96.2%	98.0%	
夜9時までに寝る子どもの割合の増加	1歳6か月児	19.9%	増やす	
	3歳児	5.6%	増やす	
テレビを2時間以上みる子どもの割合の減少	1歳6か月児	10.9%	減らす	
	3歳児	18.7%	減らす	
朝食を欠食する子どもの割合の減少	1歳6か月児	2.3%	減らす	
	3歳児	6.4%	減らす	
毎朝朝食に野菜を食べている子どもの割合増加	1歳6か月児	31.2%	34.0%	
	3歳児	23.5%	26.0%	
おやつ時間を決めている子どもの割合の増加	1歳6か月児	73.8%	78.0%	
	3歳児	69.7%	74.0%	

## 2 学童期・思春期から青年期に向けた保健対策 [基盤課題B]

### 施策の方向

学童期・思春期は身体的、精神的に著しく発達し、生活習慣が確立する大事な時期です。

乳幼児期から小・中学校で確立したより良い生活習慣を成人期に向けて継続できるよう、児童・生徒とその親が心身の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を継続する力や正しい知識・行動を選択する力を育むこと、また主体的に自分と他人を思いやりながら心豊かに成長できるよう支援していくことが必要です。

思春期の児童・生徒が健康や性行動、性感染症等について正しい知識を見つけることが大切です。

自尊感情を高めながら自分や周囲の人を大切にすることを育てるとともに、家庭・学校・地域が連携し、一体となって「生＝性」の教育、相談体制の強化に努めることが必要です。

### 行動目標

- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組もう
- ◎メディアの利用についてルールを守ろう
- ◎ひとりで悩まず相談しよう
- ◎自分の体と心を正しく知ろう
- ◎命を大切にしよう

### 市民の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
学童期・思春期	・早寝・早起き・朝ごはんて一日のリズムを整えよう
	・身体を動かそう
	・1日3食の食事は、時間を決めてバランスよく食べよう
	・歯みがき習慣を身につけ、むし歯予防のために定期的に歯科受診をしよう
	・ひとりで悩まず、周囲の人に相談しよう
	・たばこや酒の害を知り、手を出しません
	・児童・生徒やその保護者も、思春期のころと身体について正しく知ろう
	・性感染症に関する知識や避妊方法について正しく知り、不安な時は相談しよう

ライフステージ	取り組み事項
学童期・思春期	・学校の健康診査で精密検査や治療が必要な場合は受診しよう
	・ネット被害について正しく知り、安易な投稿をしない、させない
	・ネット依存について正しく知り、長時間のメディア接触を減らそう

### 地域・団体の取り組み

- ・飲酒や喫煙防止については、地域、学校、PTA、警察、関係団体等が連携し、「最初の1本を吸わせない」「最初の1口を飲ませない」取り組みを進めるとともに、公共の場等の禁煙を推進します
- ・悩みや問題を抱えた児童・生徒が自らSOSを発信する力を育てます
- ・命の大切さを伝えます
- ・悩みを打ち明けられたときは一緒に考えよう、相談機関につなげます
- ・ネット依存について正しい知識を持ちます
- ・思春期に妊娠した際の影響など、ライフプランを考える機会を提供します

### 行政の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
学童期・思春期	・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣、メディアとの付き合い方など、家庭や地域と連携し、生活習慣改善に向けて取り組みます。また、学校保健委員会、学校の文化祭等の場を活用し、啓発を行います。
	・運動習慣の確立に向けた取り組みを、学校等の関係機関と連携を図り推進します
	・規則正しい食習慣を身につけ、肥満ややせの予防を図るため、家庭や地域と連携を図り、食習慣の改善に向けた教育や啓発を行います
	・食育を推進し、食育ボランティアとの連携、学校等の関係機関との連携を図ります
	・たばこや薬物の害などに対し、児童・生徒が正しい知識を身につけ適切な行動をとれるよう、関係機関と連携して普及啓発に努めます
	・全ての小中学校、高等学校において、飲酒・喫煙防止の教育が実施されるよう体制を整備し、たばこやお酒が健康に及ぼす影響について、子どもだけでなく親が学べる機会を増やし、学校、保健所及び家庭と連携を図り、教育や啓発に引き続き取り組みます
	・悩みを抱えた小中学生及び保護者について、学校や保健所等の関係機関と連携して心の健康づくりを支援します

ライフステージ	取り組み事項
学童期・思春期	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯を健康にする生活習慣を身につけることができるよう、学校、保健所等の関係機関と連携を図り、正しい歯みがき方法を身につけるとともに、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科検診を受けること、フッ化物を上手に利用すること等、歯の健康づくりについて啓発します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を大切にすることを学べる機会を提供しよう。思春期赤ちゃん交流学習事業を多くの学校で実施できるよう波及します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>性感染症及び望まない妊娠の予防のため、保健所や学校、医療機関と連携し、子ども達の実態に合せた取り組みを行います。また、思春期の性について気軽に相談できるよう、助産師会や医療機関などが開設している専門相談の周知に努めます</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の文化祭等の機会を活用し、性に関する正しい知識の普及や助産師による専門相談を引き続き行います</li> </ul>

数値目標

項目		現状値 H30 年度	目標値 R5 年度
10代（15～19歳）の自殺率の減少 （5年平均値、単位：人口10万対）		13.86	減らす
児童・生徒における痩身傾向児の割合の減少	小学生	0.7%	減らす
	中学生	2.0%	減らす
児童・生徒における肥満傾向児の割合の減少	小学生	7.8%	減らす
	中学生	7.0%	減らす
歯肉に炎症がある十代の割合の減少	中学生	10.9%	減らす
1人平均むし歯数の減少	12歳児	0.53本	減らす
十代の喫煙をなくす	中学生	—	なくす
十代の飲酒をなくす	中学生	—	なくす
運動するように心がけている子どもの割合の増加	小学生	—	増やす
	中学生	—	増やす
「運動が好き」と回答した子どもの割合の増加	小学生	73.5%	増やす
	中学生	58.0%	増やす
朝食を欠食する子どもの割合の減少 （食べない、時々食べない子どもの割合）	小学5年生	10.1%	減らす
	中学2年生	19.1%	減らす
性感染症（クラミジア）を知っている高校生の割合の増加	男子	—	増やす
	女子	—	増やす
避妊方法（コンドームの使い方）を知っている高校生の割合の増加	男子	—	増やす
	女子	—	増やす

### 3 子どもの多様性を尊重し親子に寄り添う支援 [重点課題①]

#### 施策の方向

子育てをする中で、親が「育てにくさ」を感じることがあります。その要因には、子どもの発育・発達によるものだけでなく、親子を取り巻く様々な環境要因が影響しています。

子育て中の親が、育児に対して少しでも自信とゆとりを持てるよう、地域全体で子どもの多様性や育てにくさを理解し、親子が安心して過ごせる支援体制の充実が必要です。

#### 行動目標

- ◎子どもの発育・発達を知ろう
- ◎子どもの多様な特性を理解しよう
- ◎学びの場に参加しよう

#### 市民の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
乳幼児期 (保護者)	・子どもの発育・発達を理解しよう
	・乳幼児の育ちには多様性があることを知ろう
	・不安や悩みは抱え込まず、家族や専門の人に相談しよう
	・良い関わりを知る学びの場に積極的に参加しよう
	・乳幼児の頑張りを見つけて褒めよう
	・赤ちゃんふれあい交流学習事業等に積極的に参加しよう

#### 地域・団体の取り組み

- ・地域の親子が孤立することがないように、あたたかい声かけを行います
- ・赤ちゃんふれあい交流学習事業等に積極的に協力します
- ・子どもたち個々の特性が尊重され、安心して過ごせる居場所をつくります
- ・乳幼児の育ちには多様性があることについて理解し、適した関わりを持ちます
- ・子育ての相談を受けたときは一緒に考えよう。必要な時は専門機関に相談します



## 行政の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
乳幼児期 (保護者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子のふれあいの大切さ、自己肯定感や愛着を育てる子育てについて啓発します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長に応じた子育てに関する情報を提供します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発育や発達に合わせた育児の方法について相談支援を行います</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児健診や相談、訪問等で親子が発信する育てにくさのサインを受け止め、丁寧に継続的に支援します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障がい等の早期発見し、大田市特別支援連携協議会および大田障がい者自立支援協議会等と連携し、切れ目ない支援を行います</li> </ul>
学童期・思春期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で子育て支援を行っている母子保健推進員及び主任児童委員等との連携を強化し、あらゆる母子保健事業を通じ、親が感じている「育てにくさ」に気づき、安心して育児ができるよう適切な支援に努めます</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の児童・生徒が生命の大切さ、子育ての楽しさや喜びを体験できるよう、思春期・赤ちゃん交流学習事業を市内の小中学校に波及します</li> </ul>

## 数値目標

項目		現状値 H30 年度	目標値 R5 年度
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合の増加	4 か月児	91.5%	96.0%
	1歳6か月児	72.9%	80.0%
	3 歳児	66.1%	73.0%
子育てに関して不安感や負担を感じている親の割合の減少	就学前	53.4%	51.0%
	小学生	48.1%	46.0%
育児において相談相手のいる親の割合の増加	4 か月児	99.0%	100%
	1歳6か月児	100.0%	維持する
	3 歳児	98.0%	100%
子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合の増加		85.0%	89.0%

## 4 妊娠期からの児童虐待防止対策 [重点課題②]

### 施策の方向

虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的な状況等の要因が複雑に絡み合って起こります。虐待する親の背景は、経済的な不安、社会生活における未経験や未熟さ、育児知識や技術の不足、地域社会からの孤立や人的なサポートの希薄さなど多岐にわたります。これらのリスク要因を早期から把握して支援につなぐことが虐待予防となり、子どもの命と人権を守り、健全な成長発達を保障することにつながります。虐待予防のための支援体制の充実を図ることが必要です。

### 行動目標

- ◎家族みんなで協力し、支え合って子育てをしよう
- ◎抱え込まずに相談しよう
- ◎子育てについて学ぼう

### 市民の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期	・妊娠前や妊娠中から子育てのイメージが持てるよう、子育てに関する情報を得て学ぼう
乳幼児期 (保護者)	・親子・家族のふれあいの中で「大好き」などの気持ちを伝え、乳幼児の愛着形成に努めよう
	・子育てについて家族で話し合い、家事・育児を家族みんなで行おう
	・不安や悩みは抱え込まず相談しよう

### 地域・団体の取り組み

- ・地域の親子が孤立することがないように、声かけを行います
- ・虐待に対する理解を深め、子どもへの関心を高めます
- ・虐待が疑われる事例を発見した場合には、相談機関に相談します

## 行政の取り組み

◇母子保健対策における児童虐待予防対応マニュアルに基づき、全ての妊産婦、乳幼児を把握し、継続的に支援します。

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠届出時にアンケートを実施し、望まない妊娠等の把握を行い、身体的・精神的・社会的状況をトータルして把握していきます</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての相談役として、また子育て家庭と行政とのパイプ役として、母子保健推進員を身近な地域に配置し、妊娠期からの相談支援に取り組みます</li> </ul>
乳幼児期 (保護者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子のふれあいの大切さ、自己肯定感や愛着を育てる子育てについて啓発します</li> <li>・医療機関を含む母子保健・子育て支援関係者との連携を強化します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てにくさを感じた時に専門家に相談できる場を提供します</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診や予防接種を受けていない家庭の全数把握を行い、児童虐待防止の視点を持ち必要な家庭については関係機関と連携し対応します</li> </ul>
学童期・思春期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望まない妊娠・出産は児童虐待のリスクとなっているため、思春期対策として望まない妊娠の予防に向けた教育及び相談体制の充実を図るため、保健所や学校、医療機関と連携します</li> </ul>

## 数値目標

項目	現状値 H30 年度	目標値 R5 年度	
子どもを虐待していると思う親の割合の減少	4 か月児	1.0%	減らす
	1歳6か月児	1.8%	減らす
	3 歳児	4.4%	減らす
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合の増加	72.2%	80.0%	
乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）を知っている親の割合の増加	98.5%	100%	



## 5 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり [基盤課題C]

### 施策の方向

少子化や核家族化、生活スタイルの多様化や情報化の進展など、子育て家庭とそれを取り巻く環境は複雑に変化してきています。親が安心して子どもを産み育て、子どもが将来に夢を持って健やかに育つ環境を築くためには、地域住民が現代の子育て事情に関心を持ち、声かけを行うなど親子を温かく見守り支える気運を社会全体で高めていくことが大切です。親同士の交流を支援し、地域の人とのふれあいの中で未来を託す子どもたちを育てていく環境づくりが必要です。

### 行動目標

- ◎近所の人とあいさつをかわそう
- ◎ひとりで抱え込まず相談しよう
- ◎みんなで協力して子育てをしよう

### 市民の取り組み

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期 乳幼児期（保護者） 学童期・思春期	・日ごろから、地域住民や近所の方とあいさつを交わし、地域とのつながりをこころがけます
	・地域の子育て支援サービスを知り、積極的に活用します
	・母子保健推進員、主任児童委員等の地域の子育て支援者と顔なじみになります
	・不安や悩みは一人で抱え込まず、家族や専門の人に相談します

### 地域・団体の取り組み

- ・母親が就労しながら出産でき、仕事と子育ての両立ができる環境を整えます
- ・子育てを見守り、ねぎらいの声をかける等、子育て家庭への関わりを心がけます
- ・地域で支えながら、親が子育てに楽しさや喜びを実感できるよう、地域の子育て支援力の向上に努めます

## 行政の取り組み

◇妊娠期から子育て期において、それぞれの段階に応じたサポートやサービスに関する情報提供、気軽に相談できる体制として、大田市母子健康包括支援センターおおだっこにて関係機関と切れ目ない支援を行います。

ライフステージ	取り組み事項
妊娠期	• すすくすくプランやすすくすく子育てガイドを通じて、妊娠・子育てに関する情報提供を行います
	• 働く母親が安心して妊娠・出産・育児ができるよう、妊娠届出時における育児支援制度の説明、事業主への働きかけを継続し、医療機関や保健所等と連携し、支援体制の整備を図ります
	• 子育てについての理解が深まるよう、普及啓発を行います
乳幼児期 (保護者)	• 育児が母親だけの負担とならないよう、相談や家庭訪問等による支援を通して、父親の育児シェアを推進します
	• 母子保健推進員や食育ボランティア、主任児童委員等と今後も連携を図り、親同士の交流を目的とした育児支援を充実します
学童期・思春期	• この地域で子育てをしたいと思う親の割合などを把握し、地域の子育て環境の実態を明らかにし、実態に合わせた取り組みを行います
	• 子育て支援に関わる関係機関及び団体等と情報共有し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て家庭を支えるため、小地域の子育て支援ネットワークづくりを推進します

## 数値目標

項目	現状値 H30 年度	目標値 R5 年度
この地域で子育てをしたいと思う親の割合の増加	92.7%	97.0%
妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合の増加	71.4%	75.0%
マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合の増加	15.1%	増やす
積極的に育児をしている父親の割合の増加	63.5%	67.0%
母性健康管理指導事項連絡カードを知っている就労している妊婦の割合の増加	45.9%	50.0%